

RISTEX CT Newsletter

第 1 巻 第 1 号

発行日 2009 年 11 月 30 日

ジャカルタ ホテル同時多発テロ

長谷川 美沙 RISTEX 研究助手

ジェマ・イスラミアによる同時多発テロ攻撃

2009 年 7 月 17 日、インドネシアの首都ジャカルタ中心部にある米系高級ホテル「JW マリオット」と「リッツ・カールトン」でほぼ同時に爆破テロ事件が発生した。レストランが外国人で込みあう朝食の時間帯に合わせて、午前 7 時 47 分(現地時間) JW マリオットの 1 階ロビー左横にあるレストラン「サイレンドラ」で一発目が爆発、続いて、午前 7 時 57 分(現地時間) リッツ・カールトンの地上 2 階部分にあるレストラン「アイランガ」で二発目が爆発した。この連続爆破テロによる被害者は、死者 9 名(外国人 6 名、インドネシア人 1 名、自爆犯 2 名)、負傷者は 50 名以上にのぼる。インドネシア国家警察は、東南アジアのイスラム過激派組織、ジェマ・イスラミア(Jemaah Islamiyah、以下 JI)による犯行と断定し、JI 幹部であるノルディン・ムハマド・トップ(Noordindin Mohammad Top)容疑者を事件の首謀者として指名手配した。その後の調査で、2 名の自爆犯は、西ジャワ州出身、当時 18 歳のダニ・プルマナ(JW マリオット)とバンテン州出身、当時 28 歳のナナ・マウラナ(リッツ・カールトン)であったことが明らかになった¹。

事件の首謀者とされるノルディン・トップは、1968 年 8 月 11 日、マレーシアのジョホール州生まれであるが、2001 年、仲間のアザハリ・フシン(2005 年に自爆死)とともにインドネシアへ潜入、その後、爆弾製造に加え、人や資金集めにも長けていたとされる人物である。JI 内でも国際テロ組織アルカイダとの関係が深く、東南アジアでのイスラム革命の実現を主張する強硬派であった²。2006 年には一般人をターゲットにする

¹ The New York Times, August 7, 2009.

(http://www.nytimes.com/reuters/2009/08/07/world/international-us-indonesia-militants.html?_r=1&scp=1&sq=Nana%20Maulana&st=cse; accessed on August 7, 2009); International Crisis Group, "Indonesia: Noordin Top's Support Base", August 27, 2009. (<http://www.crisisgroup.org/home/index.cfm?id=6289>; accessed on November 30, 2009).

² Anthony Deutsch, "Most wanted terrorist Noordin M Top eluded capture for years", The Jakarta Post, August 8, 2009.

(<http://www.thejakartapost.com/news/2009/08/08/most-wanted-terrorist-noordin-m-top-eluded-capture-years.html>; accessed on November 30, 2009); 宮野弘之、「ジャカルタホテル爆弾テロ ノルディン容疑者射殺か」、産経ニュース、2009 年 8 月 8 日

(<http://sankei.jp.msn.com/world/asia/090808/asi0908081856004-n1.htm>; 2009 年 11 月 30 日アクセス); 宮野弘之、「逃亡中の J I 幹部が関与と断定 ジャカルタの爆弾テロ」、産経ニュース、2009

JI の方向性に対して JI 内部でも深刻な意見の相違が生じ、その結果、トップ容疑者は”Tanzim Qaidat al-Jihad” と呼ばれる最も過激な JI 分派を組織するようになっていた³。

テロ実行までの経緯

各種報道によれば、今回のテロ実行までの経緯として以下の点が明らかになっている。まず、実行犯グループは事件の2日前(7月15日)から JW マリオットの1808室に宿泊し、部屋で爆弾を組み立てた上で、自爆テロを決行していた。同部屋からは3個目の爆弾(解体済)がラップトップ型コンピューター用の鞆の中から発見されている。この発見された3個目の爆弾は実際の爆発よりも「前に」爆発する予定だったと考えられており、実行犯らは、まず最初に1808室で爆弾を爆発させ、宿泊客らがロビーなどに逃れた後に、二発目を炸裂させ、死傷者を拡大させる意図があったものと推測されている⁴。

ターゲット

インドネシア国家警察によると、ターゲットは毎週金曜の朝に JW マリオットで行われる外国人実業家による非公式会議であったと考えられている⁵。さらに、信憑性は明らかではないが、7月29日、イスラム系過激派のウェブサイト(Bagustv.com)に、「アルカイダ・インドネシア評議会」と名乗る団体が、ノルディン・トップ容疑者のものとされる署名入りで、「インドネシアのアルカイダを代表して」攻撃を実行したとの犯行声明を掲載した。この犯行声明では、リッツ・カールトンの事件について、「われわれのムジャヒディン(イスラム聖戦士)の1人が米国追従者を狙って実行した」と述べ、JW マリオットの自爆テロについては、インドネシア商工会議所とつながりのある米国人を狙ったとしている⁶。

テロ資金源

今回のテロ資金源に関して、警察当局の調べでは、当初、JI 構成員で自爆犯をリクルートしたとされるシャイフディン・ズーリ (Syaifudin Zuhri : 別名 Syaefudin Jailani) が、イエメンから10億ルピア(約10万USドル)のテロ資金の提供を受けていたと

年7月17日 (<http://sankei.jp.msn.com/world/asia/090718/asi0907181755001-n1.htm>; 2009年11月30日アクセス)

³ Nelson Rand, “The new face of the Jemaah Islamiyah“, Asian Conflicts Reports, Issue 7, published by the Council for Asian Terrorism Research, August 2009.

⁴ “3rd Jakarta hotel bomb was set to explode – police”, CNN, July 24, 2009.

(<http://edition.cnn.com/2009/WORLD/asiapcf/07/24/indonesia.bomb>; accessed on November 30, 2009)

⁵ Tom Wright, “Fears Climb in Jakarta Over Target of Attacks”, The Wall Street Journal, July 19, 2009.

(<http://online.wsj.com/article/SB124800477158662841.html>; accessed on November 30, 2009)

⁶ CNN ジャパン 2009.7.30 (<http://www.cnn.co.jp/world/CNN200907300005.html> ; アクセス 2009年7月30日) ; 「爆弾テロで犯行声明 インドネシア」、産経ニュース、2009年7月29日

(<http://sankei.jp.msn.com/world/asia/090729/asi0907292106003-n1.htm> ; アクセス 2009年11月30日)

報告されていた⁷。しかし、その後の調査で、ジハード関連のウェブサイトを運営するモハマド・ジブリル (Mohamad Jibril : 8月25日逮捕)と、サウジアラビア国籍のアリ・ムハンマド (Ali Muhammad : 8月18日逮捕)が、実際にはテロ資金を調達していたことが確認されている。

ズーリ容疑者(10月17日の警察の摘発の際、死亡)は、資金調達面で重要な役割を果たした主要人物であり、イエメンの大学に留学中にアラビア語を習得し、その後、ジブリル容疑者とアリ容疑者をトップ容疑者に引き合わせた張本人とされる。

なお、ジブリル容疑者とアリ容疑者は、アルカイダとの協力関係の確立を目的にパキスタンに渡航し、他にも新たな資金調達先を求めてサウジアラビアなどを渡航していたことが判明している。

今回のテロ資金の調達に携わったジブリル容疑者は、パキスタンに留学中にアルカイダに関係があるとして知られる“Al Ghuroba Study Group”に加入し、そのネットワークを生かして資金調達を行っていた。一方、アリ容疑者は海外での資金運搬の役目を果たし、世界各国の潜在的テロ資金提供者のリストを保持していたとされる⁸(アリ容疑者は、サウジアラビアのビジネスマンから10万リアル[約26,700USドル]を調達し、インドネシアに運搬したとの報道もある⁹)。

このようにJIが人を介して資金を運搬する手法を採用した理由として、銀行を介して資金を送金すれば、政府がその流れを凍結する懸念があった上、資金源を特定するための捜査活動を難航させる意図もあったと推測されている¹⁰。

イスラム過激派摘発作戦の決行

国内では4年ぶりに起きた大規模テロ事件を受け、インドネシア国家警察はイスラム過激派の徹底的な摘発作戦に乗り出し、その最初の大規模摘発作戦を8月7日に実行した。インドネシア国家警察の対テロ特殊部隊は中部ジャワ州トゥマンゲン(Temanggung)で、トップ容疑者率いるグループの潜伏先を急襲し、17時間を超える銃撃戦の末に制圧。現場からは男性1人の遺体が発見され、当初はトップ容疑者の死亡説が報道されたが、DNA鑑定の結果、死亡したのはトップ容疑者ではなく、今回の同時爆破テロの実行犯を

⁷ Dicky Christanto, “New recruits, funding keep Noordin, JI on the attack”, The Jakarta Post, August 18, 2009.

(<http://www.thejakartapost.com/news/2009/08/18/new-recruits-funding-keep-noordin-ji-attack.html>;
accessed on November 30, 2009)

⁸ “Syarifudin, Syahrir key figures in attacks: Police”, The Jakarta Post, October 10, 2009.

(<http://www.thejakartapost.com/news/2009/10/10/syarifudin-syahrir-key-figures-attacks-police.html>;
accessed on November 30, 2009); Dicky Christanto, “Jibril, Ali cooperated in funding hotel bombings”,
The Jakarta Post, September 2, 2009.

(<http://www.thejakartapost.com/news/2009/09/02/jibril-ali-cooperated-funding-hotel-bombings.html>;
accessed on November 30, 2009)

⁹ Amy Chew, “Killing a setback for al-Qaeda’s Asia wing”, South China Morning Post, November 25, 2009.

¹⁰ Adi P. Simamora, “Bomb funding brought from Mideast by couriers: Govt”, The Jakarta Post, August 20, 2009.

(<http://www.thejakartapost.com/news/2009/08/20/bomb-funding-brought-mideast-couriers-govt.html>;
accessed on November 30, 2009)

手引きしたイブロヒム (Ibrohim) 容疑者 (当時37歳) と断定された¹¹。イブロヒム容疑者は2000年頃にJ1のジャカルタ地域を管轄するグループにリクルートされ、2005年からは両ホテルの委託園芸業者として働きながら、4年の歳月をかけてテロ準備を着々と進めていた。また、テロ実行においても主犯格として、標的の選定から現場の視察、両ホテルへの爆弾搬入など、中心的な役割を担っていたとされる¹²。

さらに、対テロ特殊部隊は8月8日未明、西ジャワ州ブカシ (Bekasi) にあるJ1の潜伏先を急襲し、銃撃戦の末に、アイル・スティアワン (Air Setiyawan)、エコ・ジョコ (Eko Joko) 両容疑者を射殺した。このうちアイル容疑者は2004年の豪州大使館爆弾テロ事件にも関与していたとされる。現場からは100キロを越える爆発物や爆弾を搭載した自動車が発見されたが、インドネシア国家警察の調べでは、現場はユドヨノ大統領私邸から車で12分の距離であり、8月17日のインドネシア独立記念日前後に、大統領私邸を標的とした自動車爆弾テロを計画していたとのことである。なお、大統領私邸を標的にした理由として、2002年のバリ島爆弾テロ実行犯のJ1幹部ら3人の死刑執行責任が大統領にあったためとされる¹³。

新たなテロの発覚

事件の捜査が進む中、8月31日には別のテロ計画の存在も発覚する。8月7日の摘発作戦で射殺されたイブロヒム容疑者の義理の兄弟であるモハマド・シャリル容疑者 (Mohamad Syahrir : 10月17日の警察による摘発の際に死亡) が中心となって、より大規模なテロを計画していたことが明らかになった¹⁴。シャリル容疑者は、2004年まで国営

¹¹ Romeo Gacad, 「ヌルディン容疑者死亡か、警察と銃撃戦 インドネシア」、AFP BB News、2009年08月08日 (<http://www.afpbb.com/article/war-unrest/2628808/4436010> ; アクセス 2009年11月30日) ; Romeo Gacad, 「銃撃で死亡の男はヌルディン容疑者ではない、インドネシア警察」、AFP BB News、2009年08月12日 (<http://www.afpbb.com/article/war-unrest/2630002/4447635> ; アクセス 2009年11月30日) ; CNN ジャパン、2009年8月8日 (<http://www.cnn.co.jp/world/CNN200908080005.html> ; アクセス 2009年8月8日)

¹² The Washington Post, August 13, 2009. (http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/08/12/AR2009081200328_2.html; accessed on August 13, 2009); The New York Times, August 12, 2009. (<http://www.nytimes.com/aponline/2009/08/12/world/AP-AS-Indonesia-Terror-Suspect.html?scp=1&sq=Ibrohim%20&st=cse>; accessed on August 12, 2009)

¹³ Seth Mydans, “Indonesian Leaders Praise Raids”, The New York Times, August 9, 2009 (http://www.nytimes.com/2009/08/10/world/asia/10indo.html?_r=1&scp=1&sq=jakarta%20terror&st=cse; accessed on August 9, 2009); “Police told to prove terror threats on president”, The Jakarta Post, August 10, 2009 (<http://www.thejakartapost.com/news/2009/08/10/police-told-prove-terror-threats-president.html>; accessed on August 10, 2009); “Special Report: Saifudin Jaelani; Noordin's prodigy in action”, The Jakarta Post, August 15, 2009 (<http://www.thejakartapost.com/news/2009/08/15/specialreport-saifudin-jaelani-noordin039s-prodigy-action.html>; accessed on August 15, 2009); “Police: Indonesian president was targeted”, CNN, August 9, 2009 (<http://edition.cnn.com/2009/WORLD/asiapcf/08/09/indonesia.terror/index.html>; accessed on August 9, 2009); 毎日新聞 2009年8月8日 (<http://mainichi.jp/select/world/news/20090809k0000m030066000c.html?inb=yt>; 2009年8月10日アクセス)。

¹⁴ The Washington Post, August 31, 2009. (<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/08/31/AR2009083101234.html>; accessed

航空会社ガルーダ・インドネシア航空に技術者として雇用されており、同航空会社の社員として18か月間にわたる正規の軍事訓練を受けていた経験もあった¹⁵。彼がいつの時点でJIメンバーとなったのか、詳細は不明であるが、報道によれば、インドネシアの航空セクターをターゲットにしたテロ計画を考えていたとされる¹⁶。ただし、いつ、いかなる方法でテロを実行しようとしていたかの詳細については公表されていない。シャリル容疑者は航空産業界につながりを構築し、テロのリクルートの初期段階とされるコーラン朗読会に航空人員を数名招いていたという。テロリストによる過激化においては、このような朗読会のセッションを繰り返した後、徐々にジハードの教えを吹き込み、候補者を絞り込んだ上で、最終的にはテロ攻撃に加担するようにテロリストを養成してゆく事例も多い¹⁷。

ノルディン・トップ容疑者死亡

インドネシア国家警察によるイスラム過激派摘発作戦が徐々に成果を上げる中で、対テロ特殊部隊は、9月16日夜から17日未明にかけ、中部ジャワ州ソロ市郊外にあるJIのアジトを急襲する新たな大規模摘発作戦を実行する。9時間におよぶ激しい銃撃戦と爆弾爆発の末、ノルディン・トップ容疑者(当時41歳)を含む4名が死亡し、現場からはすでに使用可能になっていた爆発物約200キロ、自動小銃、弾薬、パソコンなどのほか、「東南アジアのアルカイダ指導者組織」と記された文書が発見された模様¹⁸。インドネシア国家警察のダヌリ長官は17日午後の記者会見で、採取した指紋がトップ容疑者と一致したと発表し、19日のナナン報道官の記者会見ではDNAテストでもトップ容疑者と一致、同容疑者が死亡したことを認めた¹⁹。今回の銃撃戦で死亡した他の3名は、2004年豪州大使館爆弾テロの容疑者で今回のホテル同時爆破テロの容疑者でもあるBagus Budi Pranoto(別名Urwah)、爆弾製造を担当していたAryo Sudarsono、アジトを借りて

on September 3, 2009).

¹⁵ Amy Chew, "Killing a setback for al-Qaeda's Asia wing", South China Morning Post, November 25, 2009.

¹⁶ John Harrison and V.Arianti, "Almost Another 9/11:JI's Planning Aviation Attack", RSIS Commentaries, November 25, 2009.

¹⁷ Amy Chew, "Killing a setback for al-Qaeda's Asia wing", South China Morning Post, November 25, 2009.

¹⁸ 「イスラム過激派の大物テロリスト、ノルディン・トップ容疑者が死亡」、産経ニュース、2009年9月17日 (<http://sankei.jp.msn.com/world/asia/090917/asi0909171917005-n1.htm>; アクセス2009年9月17日); 「武装集団と警察が銃撃戦、4人死亡 インドネシア・ジャワ」、産経ニュース、2009年9月17日 (<http://sankei.jp.msn.com/world/asia/090917/asi0909171307003-n1.htm>; アクセス2009年9月17日); 毎日新聞 2009年9月18日

(<http://mainichi.jp/select/world/news/20090918ddm007030093000c.html>; アクセス2009年9月24日); Anwar Mustafa, "Terror mastermind Noordin dead in Indonesia raid: police", Sydney Morning Herald, September 17, 2009. (<http://news.smh.com.au/breaking-news-world/terror-mastermind-noordin-dead-in-indonesia-raid-police-20090917-ftk6.html>; accessed on September 17, 2009).

¹⁹ The Washington Post, September 18, 2009.

(<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2009/09/19/AR2009091900736.html>; accessed on September 24, 2009)

いたAdib Susiloであることが判明した²⁰。

「アルカイダ・アジア」の設立構想？

報道によれば、今回押収されたパソコン情報を分析したところ、トップ容疑者は明らかに「アルカイダ・アジア (Al-Qaeda Asia)」設立を構想し、トップ容疑者自身がその組織を先導、拠点をインドネシアに置く計画を示す情報が発見されたという。実際に、トップ容疑者は人材や資金の調達活動も行っていった模様で、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ攻撃における世界貿易センター・ビル攻撃よりも「大きなテロ攻撃」を計画していたとされる²¹。

今後のテロ対策へのインプリケーション

大物テロリストのノルディン・トップが死亡したことで、JI勢力は急激に弱体化し、少なくともこれまでのところ、インドネシアにおけるテロ対策は確実に成果を上げてきたと評価できる。しかし言うまでもなく、トップ容疑者が死亡したからといってインドネシアでのテロの脅威が消滅したと見なすべきではない、と数多くの専門家は指摘する。トップ容疑者は自身のカリスマ性を生かして独自のネットワークを作りあげ、自分のイデオロギーを継承する後継者を既に養成していた可能性が考えられている。しかも、インドネシアでは過激派思想を吹聴する事例が各地で依然、見受けられており²²、もはやテロ脅威の主体はJIという組織から、小規模なテロリストのセルやネットワークに移行したとの見方もある。インドネシアでは、インテリジェンス・コミュニティが把握していないグループや個人がテロリストになる危険性に対する警戒感すら高まっている。

今回のインドネシアにおける爆破テロ攻撃から、今後のテロ対策のためにいくつかの重要なインプリケーションが引き出されうる。

まず、爆破テロ対策において、インサイダーによる脅威への対策を強化しなければならない。今回のテロ攻撃では、ホテルや航空会社等の関係者がテロ組織によってリクルートされていた。今日に至っても、インドネシアでは、JIにメンバーとして加盟すること自体は違法行為ではない。今後、インドネシアのみならず、世界各国において、ホテルや航空会社等の業界で人材を雇用するにあたり、果たしてどのようなバックグラウンド・チェックを行うべきであろうか？国際民間航空機関 (ICAO) においても、今後、雇用基準や従業員のチェック等について何らかの基準について議論する必要がある、との指摘もある²³。

²⁰ Peter Gelling and Seth Mydans, "Indonesian Police Kill Alleged Terror Mastermind", The New York Times, September 17, 2009.

(<http://www.nytimes.com/2009/09/18/world/asia/18indo.html?scp=2&sq=noordin%20top&st=cse>;
accessed on September 17, 2009)

²¹ Amy Chew, "Killing a setback for al-Qaeda's Asia wing", South China Morning Post, November 25, 2009.

²² The International Crisis Group, "Indonesia: Radicalisation of the 'Palembang Group'", Asia Briefing N°92, ICG Report, May 20, 2009. (<http://www.crisisgroup.org/home/index.cfm?id=6110&l=1>; accessed on November 30, 2009)

²³ John Harrison and V.Arianti, "Almost Another 9/11:JI's Planning Aviation Attack", RSIS

さらに、テロ資金対策においては、人間の手で資金が運ばれてテロ組織に渡される事例も数多いことから、従来のような金融機関ベースの対策のみならず、国境管理・貨物管理における取り締まりのさらなる強化が望まれる。これは、何もテロ対策のみに限った話ではない。インドネシアのみならず、世界の様々な国々において、出入国・輸出入管理体制の強化は、犯罪対策・経済政策としても必須の課題である。

最後に、過激化対策も重要な課題の一つである。インドネシアの専門家は、インドネシアのJIの中には、反米のイデオロギーは共有しているものの、暴力的手段を厭わないグループと暴力的手段に訴えない消極的なグループとが共存していると指摘する。さらに、JIと似たイデオロギーを持つ他の過激派グループも存在している。このようなグループが、JIのスリーパー・セルとなる可能性はある。またインドネシアでは血縁や婚姻関係、出身校や戦争体験共有による繋がりも強い。加えて、これまでに逮捕されたテロリスト400人のうち、100人はすでに釈放され、その後の足取りがつかめていないという²⁴。テロリストの親族ネットワーク対策、釈放済みテロリストの所在把握および社会復帰のためのリハビリなど、過激化への対策が急務である²⁵。

(参考) ジェマ・イスラミア (JI) ²⁶

1990年代初頭にマレーシアにおいて設立。組織名はアラビア語で「イスラム共同体」を意味し、インドネシア、マレーシア、フィリピン南部などにまたがる地域にイスラム国家樹立を目指して活動している。構成員の多くがアフガニスタンで軍事訓練を受け、国際テロ組織アルカイダから資金提供を得ているとされる。主な事件だけでも下記に記した一連のテロ行為を実行している。

- ・ 2002年10月 インドネシア、バリ島クタ地区のディスコで爆弾テロ (邦人2名含む202名死亡、負傷者300名以上)
- ・ 2003年8月 ジャカルタでの米系高級ホテルJWマリオットで爆発 (死者12名、負傷者約150名)
- ・ 2004年9月 ジャカルタ、豪州大使館前で自動車自爆 (死者11名、負傷者約180名)
- ・ 2005年10月 バリ島クタ地区及びジンバラン地区のレストランで同時自爆テロ (死者23名、負傷者約140名)

Commentaries, November 25, 2009.

²⁴ Jamhari Makruf, "Cutting off the Line", presentation at Council for Asian Terrorism Research (CATR) Conference, October 27, 2009 (Seoul).

²⁵ 野呂尚子アソシエイト・フェロー (RISTEX) のコメント。

²⁶ 「最近のインドネシア情勢と日・インドネシア関係」、外務省ウェブサイト、平成21年11月 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/INDONESIA/kankei.html>; アクセス2009年11月30日)、読売新聞 2005.10.7"用語解説 ジェマア・イスラミアとは"

<<http://plus.yomiuri.co.jp/article/words/%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%9E%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%83%9F%E3%82%A2>>

より引用。

テロ対策資機材 展示会報告

野呂 尚子 RISTEX アソシエイト・フェロー

今年の3月に開催された、英国の公安資機材展示会（HOSDB Exhibit 2009）および米国の分析機器展示会（PITTCON 2009）に参加した。HOSDB Exhibitは英国内務省科学技術開発局（Home Office Scientific Development Bureau; HOSDB）が主催しており、警察など公安関係者・軍・政府関係者を対象とした展示会である。主に英国の企業を中心に約200社、主に警察向けの個人防護装備、危険物等検知機器、監視カメラシステムなど約3000点の展示があった。

他方、PITTCONは出展企業が1000社を超える大規模な分析機器の国際会議・展示会であり、日本からも20社・216人が参加した。分析機器・計測機器・周辺機器などの展示が中心だが、爆発物・化学剤・生物剤検知機器などの展示も数多くあった。

以下、上記2つの展示会におけるCBRNE検知技術の一部を紹介する。

HOSDB Exhibit 2009（3月4-5日、英アリスバリー）

・OptoScreen社（英）の「OptoScreener」は、空港などのチェックポイントで使用できるX線による液体爆発物・危険物検知器である。液体爆発物、武器のX線画像のデータベースを搭載しており、武器や武器の一部、危険な液体やジェルを検知できる。また、可燃物や酸化剤、促進剤が入ったボトルを非開封で検知することができる。スクリーン上では、検知した物質がハイライトされて表示され、同時に警告メッセージが出る仕組みとなっており、検査官に注意を促す自動意志決定支援システムである。スクリーンはタッチパネル式で、操作性を考慮している。

・ThruVision社（英）は、テラヘルツを用いた遠隔スクリーニング・システム、「ThruVisionT4000」の展示を行っていた。ThruVisionT4000に使用されているのは、人体から発せられる微弱なテラヘルツ波（パッシブ）である。アプリケーション例では、カメラを施設の入り口などに取り付け、カメラがテラヘルツ画像とCCTV画像を同時に撮像し、Ethernet Linkを通じてPCに画像を送り、リアルタイムで非金属の隠匿物を検知する。検知対象物の大きさによって異なるが、およそ3-15mの距離から検知が可能である。

・SCANNA社（英）の「ScanMail 10K」は、電子スキャナーによる郵便物内の危険物検知器である。厚さ6センチまでの郵便物をスキャンできる。検知にかかる時間は3-5分程度であり、爆発物のコンポーネントとなりうるバッテリーや雷管、タイマーなどを検知する。またカミソリなどの刃も検知が可能である。無害なクリップ・ホチキスには反応しない。

PITTCON 2009（3月8-13日、シカゴ）

・AIRSENSE社（独）の「GDA 2」は、有害ガス・化学兵器剤（CWAs）のポータブル検知である。イオン移動度分光分析（IMS）、光イオン化検出器（PID）、電気化学検知（EC）など、複数の検出方式を組み合わせることにより、擬陽性を抑えることができ、またより多くの

ガス・CWAsの検知が可能である。検知に要する時間は1分以下であり、検知データをワイヤレス・コネクショで送信できる。

・ラマン分光法を用いた Ahura Scientific 社（米）の「FirstDefender」は、ポータブル爆発物・化学剤検知器である。液体・固体・粉末の検知が可能であり、爆発物、有害工業化学物質（TICs）、CWAs、白粉末、麻薬などが検知対象物となっている。個体・液体の混合物の検知も可能である。

・BRUKER 社（独）の「RAPID」は、フーリエ変換赤外分光（FT-IR）センサを搭載したスタンドオフ化学剤検知器である。CWAs、TICsの検知を最高で5kmの距離、360°の範囲で検知が可能だ。3Dの化学剤クラウド断層撮影により、化学剤クラウドの正確な位置・特定された化学剤の濃度を判定できる。その他、イオン・モビリティ・スペクトロメーター（IMS）を用いたハンドヘルド型 TICs 検知器、IMSを用いた化学・放射線検知器など多数を展示。

・GE Security 社（米）の「Itemiser」は、世界初の正負両イオン同時検知可能なデスクトップ型爆発物・麻薬検知器である。麻薬と爆発物が同時に検知可能だ。サンプル粒子をテフロン・コーティングされたグラスファイバーで拭き取り（スワイプ）、Itemiser にセットし、イオン・トラップ・モビリティ・スペクトロメーター（ITMS）により約7秒で検知する。その他、ラマン分光法によるハンドヘルド型 TICs ・爆発物・麻薬検知器、ITMSによるハンドヘルド型爆発物・麻薬同時検知器などを展示。

・Smith Detection 社（英）の「Responder RCI」は、ラマン分光法による化学特定器である。16500以上のラマン・スペクトルのライブラリを搭載し、白粉末、爆発物、神経剤、麻薬、通常化学薬品などの固体および液体の特定が可能だ。また、同社のフーリエ変換赤外分光（FT-IR）による化学剤検知器「HazmatID」とのワイヤレス通信が可能である。「HazmatID」は、サンプルの前処理が不要で、粉末・液体・固体の検知ができる。踏査されたライブラリには、神経ガス・ブリストーガスなどの CWAs、TICs、爆発物、農薬などのデータが記録されている。特定にかかる時間は約20秒。その他、FT-IRを用いたポータブル・ガスおよび蒸気特定装置、IMSによる最小のハンドヘルド型爆発物・TICs・麻薬等トレース検知器「SABRE 4000」など、多数を展示。

このように、米・欧州を中心に各国ではテロ対策に資する技術・資機材の展示会や国際会議が頻繁に開催されている。そこでは開発企業・政策担当者・実務者・研究者など、さまざまなステイクホルダーが集い、意見・情報を交わし、ビジネスに直結したネットワークを築いている。しかしながら、英 HOSDB においては日本企業の出展はなく、また日本の公安関係者などステイクホルダーの参加もなかった。PITTCON は上述のとおり日本から多数の出展・参加があったが、セキュリティ分野でのアプリケーション展示を行っているところはほとんどなかった。PITTCON には様々なセミナーも併設されており、新技術の発表や、IED 対策技術・国土安全保障などセキュリティに関するセッションも行われている。FBI や国防総省もブースを出しており、セキュリティ分野への関心も高い。また各国で日本の技術に対する関心・期待も高いため、今後各種会議・展示会への日本からの積極的な参加を期待したい。

国内外における主要な会議・展示会

(注：弊センター主催以外の会議に関するお問い合わせ・お申し込みは、直接先方をお願いいたします。)

会議名：Counter-IED Symposium

会期：2009年12月1-2日

会場：Gaylord National Hotel (米ワシントンDC)

主催：ICAHST (Interagency Council for Applied Homeland Security Technology)

概要：米国内におけるIED(簡易手製爆弾)対策に関する会議および展示会。議題は、主要インフラ防護、関係者間情報共有、人間行動研究、軍と民間の役割、爆弾処理・検知等技術など、多岐にわたる。

ウェブサイト：<https://www.ncsi.com/cied09/index.shtml>

会議名：Intelligence Warfighting Summit

会期：2009年12月15-17日

会場：JW Marriott Starr Pass Resort & Spa (米アリゾナ州ツーソン)

主催：米陸軍インテリジェンス・センター

概要：戦場におけるインテリジェンスの役割、インテリジェンス技術などに関する会議。

ウェブサイト：<https://www.ncsi.com/iws09/index.shtml>

会議名：Counter CBRN Operations

会期：2010年2月1-2日

会場：Marriott Regents Park Hotel (イギリス・ロンドン)

主催：SMi (英)

概要：CBRN対策に関する国際会議。各国のトレーニング・プログラム、省庁間連携など。英国警察、NATOのWMDセンター、米海軍などが講師として発表予定。

ウェブサイト：<http://www.smi-online.co.uk/events/overview.asp?is=1&ref=3340>

会議名：USEUCOM Intelligence Summit & Technologies Expo

会期：2010年2月15-17日

会場：ドイツ・ハイデルベルク

主催：アメリカ欧州軍 (USEUCOM)

概要：米・欧州の安全保障、インテリジェンス協力、インテリジェンス技術等に関する国際会議。

ウェブサイト：<https://www.ncsi.com/eucom09/index.shtml>

会議名：Border Security 2010

会期：2010年3月3-4日

会場：Crowne Plaza Rome St. Peter's Hotel & Spa (イタリア・ローマ)

主催：SMi (英)

概要：陸・海・空の境界セキュリティに関する国際会議。サバーランスなどの国境管理技術につき、発表・展示が行われる。

ウェブサイト：<http://www.smi-online.co.uk/events/overview.asp?is=1&ref=3192>**会議名：2010 Annual Biometrics and Forensic Summit**

会期：2010年3月30日-4月1日

会場：Manchester Grand Hyatt (米カリフォルニア州サンディエゴ)

主催：米陸軍インテリジェンス・センター

概要：戦場におけるバイオメトリクス・フォレンジック技術に関する会議および展示会。

ウェブサイト：<https://www.ncsi.com/biometrics10/index.shtml>**会議名：The 10th International Symposium on Protection against Chemical and Biological Warfare Agents**

会期：2010年6月8-11日

会場：Kistamässan (スウェーデン・ストックホルム郊外)

主催：スウェーデン外務省、防衛研究局、ほか

概要：生物化学兵器テロ対策の現状と課題、対策に資する研究開発などに関する大規模な国際シンポジウム。CB兵器対策技術展示会併設。

ウェブサイト：<http://www.cbwsymp.foi.se/>

RISTEX CT Newsletter 第1号

発行人：(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

古川勝久 野呂尚子 友次晋介 長谷川美沙

発行日：2009年11月30日

〒102-0084 東京都千代田区二番町3 麹町スクエア5階

Tel: 03-5214-0134 Fax: 03-5214-0140

e-mail: ct-seminar@ristex.jst.go.jpHP: <http://www.ristex.jp/index.html>

※本ニュースレターから引用される場合には、引用元を明記の上、ご利用ください。